

社会科を学ぼう

1 中学校社会科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

(1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 社会科の学習内容



【地理的分野】 日本の諸地域と世界の諸地域を学習します。(1・2年)

【歴史的分野】 世界の歴史を背景に、日本の歴史を学習します。(1～3年生)

【公民的分野】 政治・法・経済や国際社会の中の日本について学習します。(3年生)

【学習計画】

月	1年(105時間)【地理・歴史】	2年(105時間)【地理・歴史】	3年(140時間)【歴史・公民】
4	世界と日本の姿【地理】	近世の日本【歴史】	近代の日本【歴史】
5	世界各地の人々の生活と環境		
6	【地理】	日本の地域的特色と地域区分【地理】	現代の日本【歴史】
7	古代までの日本【歴史】		現代社会と私たち【公民】
9		日本の諸地域【地理】	個人の尊重と日本国憲法【公民】
10	世界の諸地域【地理】		現代の民主政治と社会【公民】
11			
12	中世の日本【歴史】	身近な地域の調査【地理】	私たちの暮らしと経済【公民】
1		近代の日本【歴史】	地球社会と私たち【公民】
2	近世の日本【歴史】		
3			

3 社会科の授業で必要なもの

【地理の授業・1・2年生】→・地理の教科書、地理用ノート、地図帳、地理資料集、ワーク

【歴史の授業・1～3年生】→・歴史の教科書、歴史用ノート、地図帳、歴史資料集、ワーク

【公民の授業……3年生】→・公民の教科書、公民用ノート、公民資料集、ワーク

【全分野共通のもの】→→→→・筆記用具(えんぴつ、消しゴム)、色えんぴつ、のり、はさみ、
・定規(筆箱に入る大きさのものが便利)

4 社会科の学習のポイント

【授業では】

- 基礎・基本となること（教科書の太字や先生が強調した部分など）をしっかりと頭に入れよう。
- 積極的に参加しよう。（発言・作業・話し合い・質問など）
- ノートを工夫しよう。（見やすくまとめる、地図・資料やイラストを入れる、メモをとるなど）

※指示されたことをやるだけでなく、「なぜ?」「どうして?」という疑問の気持ちを持つことが大切です。そうすることで意欲や関心が高まり、内容をより深くとらえられるようになります。主体的に考え、自分なりの言葉で表現する習慣を身につけましょう。

【家庭では】

- その日のうちに授業を振り返り、学習を整理しておこう。復習・反復が大切です。
- わからないことや疑問点があったときは、自分なりに調べてみよう。
- テレビや新聞のニュースなどを積極的に見て、世の中のできごとに興味・関心を持とう。

※旅行番組や時代劇、ドキュメンタリー番組など、社会科に関するテレビ番組は数多くあります。また、歴史物の本や雑誌を読んだり、観光ガイドブックなどを見ることもよい勉強となります。身近なところに目を向け、興味をもつことで、楽しみながら社会科の力をつけていきましょう。

【保護者の皆様へ】

社会科は、私たちの存在するこの世界の成り立ち・しくみ・人々の生活のありさまなどを学習する教科です。ぜひ、日頃からテレビや新聞のニュースなどをお子さんとの話題にしてみてください。世の中の動きと中学校での学習がつながることで、お子さんの興味・関心が高まります。また、将来のことについて話したりすると、やる気が伸びます。

地理や歴史のテレビ番組や小説、漫画などにも役立つものがあります。博物館や歴史資料館などに出かけみることも、よい学習の機会になることと思います。

5 社会科の評価の観点及び評価・評定の方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点項目	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、それらを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	○授業の見とり（発言・発表内容、作業での取組状況） ○ノート・レポート・プリント・ワーク等の内容 ○定期テスト(知識・技能問題)	○授業の見とり（発言・発表内容、作業での取組状況） ○ノート・レポート・プリント・ワーク等の内容 ○定期テスト(思考・判断・表現問題)	○授業の見とり（発言・発表・取組状況） ○ノート・レポート・プリント・ワーク等の内容 ○生徒の自己評価、相互評価
評価	十分満足できる A	おおむね満足できる B	努力を要する C
評定	3つの観点を総括して、5段階で評価します。		
	十分満足できるもののうち、特に程度が高い 5	十分満足できる 4	おおむね満足できる 3
	努力を要する 2	一層努力を要する 1	